

チカホから未来へ、引き継いでいく平和への思い 「ピースフォーラム in チ・カ・ホ」開催報告

コープさっぽろ組合員活動委員会副委員長 立澤 留美

8月22日、札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）にて、コープさっぽろ主催、北海道生活協同組合連合会（道連）、札幌市様の共催のもと「ピースフォーラム in チ・カ・ホ」を開催致しました。

本フォーラムは、現代を生きる一人ひとりが平和の尊さや命の大切さを改めて捉え直し、次世代へと継承していくことを目的に実施されたものです。

当日は午前午後に分けて4本のプログラムが披露され、第1部では「ピースアクション in オキナワ」の参加報告と、被爆者による実体験に基づいた貴重な講話が行われました。第2部では、札幌南高校定時制の生徒たちによる朗読劇「あの日 あの時 ヒロシマ」を含む3本の朗読劇上演で、心に刺さる迫真の演技で幕を開け、その後は札幌市平和訪問団の生徒、そしてコープさっぽろ道内各地区から推薦を受けて平和スタディツアーに参加した生徒たちによる報告などが行わ



れました。多世代の発表者それぞれが、広島の地に降り立ち観て聞いて感じたことを自らの言葉で平和への思いを紡ぐ姿に、通行中の市民や買い物客、また海外からの旅行者が足を止め、真剣に耳を傾けていました。

また会場には、札幌市平和訪問団の生徒たちが平和への思いを寄せた絵画の展示や、戦争の惨禍を伝えるパネル展示が行われ、多くの方々に関心を集めていました。

買い物客などの日常の利用者や旅行者が行き交うチ・カ・ホという開かれた場で開催することで、多くの人々が立ち寄り「自分ごと」として平和を考える貴重な機会となりました。

私たちはこれからも地域社会と連携し、誰もが安心して暮らせる未来を目指して平和の大切さを発信し続けてまいります。





第2弾

学生こども食堂 & 防災企画

開催報告

ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト
立命館慶祥高等学校3年 太田 琶子

近年、全国的に大規模な自然災害が相次いでおり、北海道においても日頃からの災害への備えが非常に重要となっています。

こうした背景から、当団体では学生主体の「こども食堂」の実施にあわせ、親子で参加できる防災学習企画を「こくみん共済 coop 北海道推進本部」様との共催により実施いたします。

イベントを通じて、地域の親子が楽しみながら防災意識を高め、万が一の事態に備えるきっかけとなることを目指しています。

- 【日 時】 8月30日(日)10:00～14:00
【集合場所】 こくみん共済 coop 北海道会館
【開催場所】 札幌留学生交流センター 2階会議室
【主 催】 ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト
／こくみん共済 coop 北海道推進本部
【参 加 者】 大人13名、子供15名、学生17名、事務局3名、支援者6名、計54名

子ども食堂×防災！ 楽しく学んで防災意識を高める試み

今回の企画は、「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト」と「こくみん共済 coop 北海道推進本部」の共同開催により、学生が主体となって運営する「子ども食堂」の第二弾として「防災」をテーマに実施しました。まずは「札幌市民防災センター」を訪れ、体験型の防災学習を行いました。会場では心肺蘇生や強風、地震、避難、さらには災害バーチャル体験など、普段はなかなか触れる機会のないプログラムを多数体験しました。子どもたちはどの体験にも興味津々で、一つ終わると「次はこれ！」とすぐに次のブースへ向かうなど、終始目を輝かせて参加していました。実際に体を動かして体験することで、万が一の災害時にどう行動すべきかを、言葉だけの説明以上に分かりやすく深く学ぶことができたと感じます。



「怖い」で終わらせない！ 体験を通じて深まった防災への学び

体験後に行われた講話の時間では、子どもたちが想像以上に真剣なまなざしで耳を傾けていた姿がとても印象的でした。体験中は無邪気に楽しんでいた子どもたちが、説明になると一転して集中して話を聞いており、メリハリを持って防災に向き合っている様子が伝わってきました。参加した子どもから「怖かったけど、すごく勉強になった！」という感想を聞いたのも大きな成果です。単に「災害＝怖いもの」という恐れだけで終わらせず、自分の身を守るための前向きな学びへとつなげることができました。

大人気のおかわりカレーと、自分で飾る手作りゼリー

防災センターから「札幌留学生会館」に戻った後は、待ちに待ったみんなでの昼食タイムです。今回のメニューは、夏野菜カレーにコールスローサラダ、そして子どもたちが自分たちでデコレーションを楽しむ手作り寒天ゼリーを用意しました。特に夏野菜カレーは大人気で、「おかわり！」と何度もおかわりに走る子どもたちの姿が見られ、美味しそうにたくさん食べてくれる様子に心が温まりました。



遊びを通した自然な交流と、クイズで広がる学びの輪

食後は、「デンジャラスロード」やオリジナル缶バッジ作り、防災クイズなどのレクリエーションを行いました。どのイベントも大盛り上がりでしたが、特に防災クイズでは「これ知ってる!」「こうするんだよ」とお互いに知識を教え合ったり会話を弾ませたりする場面が見られました。ただ遊んで楽しむだけでなく、子どもたち同士が自然な形で声を掛け合い、新たな交流の輪を広げていく姿を見ることができたのも大きな喜びでした。



参加者の笑顔が原動力！ 企画運営で得た大きなやりがい

一日の終わりには、子どもたちだけでなく保護者や地域の大人の皆様も弾けるような笑顔で帰路につく姿を見ることができ、私自身も胸がいっぱいになりました。子どもたちが楽しみながら新たな知識を身につけ、交友関係を深めていく。自分が企画や運営に携わることで、誰かの学びや温かい思い出となる時間を作り出せるという、かけがえのないやりがいを実感しました。

今回の経験を通じ、イベントを単に成功させるだけでなく「参加してくれた人に何を持ち帰ってもらえるか」を追求する重要性を学びました。今後も子どもたちの好奇心を育み、人と人との繋がりを広げられるような活動を続けていきたいです。



参加者の声

- 自由な雰囲気の中で自然に興味を持てるのがとても良かったです！親も勉強になりました。
- 子供食堂は仕事の終わる時間の都合上行ったことがなく、初めて参加しました。防災対策を含めたありがたい企画です。また、学生さんがたが親切に笑顔で接して下さりいつもほっこりします。
- 学生さんがボランティアをしているという環境も素

晴らしいと思います。自分が学生の時はボランティアなんてしたことがなかったので本当にすごいです。お忙しいと思いますが、また企画していただけたら嬉しいです。

- 防災について家族で学ぶことができてとても勉強になりました。
- 素敵な企画をありがとうございました。またこのようなイベントに参加したいです。